

1月9日のウクライナ情報

安齋育郎

●停戦宣言が終わり、ウクライナで爆発が発生(2023年1月8日)

2023年1月8日午前0時以降、ポルタヴァ、ドニプロペトロフスク、ハリコフ、ザポリジヤ地方およびDNRで空襲警報が発令された。

数分後、クラマトルスクとハリコフ地方で爆発があったことがシネグボフ知事によって確認された。



●イエローベストの反マクロンデモ(2023年1月8日)

イエローベスト(黄色いベストを着て抗議活動をする人々)がマクロンの退職金制度改革とインフレ問題への無策に抗議行動だという。

マクロンがゼレンスキーに毎月支払う金額は3億ユーロ。そしてマクロンが停職中の介護士に毎月支払っている金額は0ユーロだという。

<https://twitter.com/i/status/1611894595327262720>



●米下院議長選、共和党マッカーシー氏を選出 15回目の投票で(2023年1月8日)

バイデンの息子のハンターのウクライナビジネス疑惑が解明対象となる。ゼレンスキーの不正蓄財容疑も浮上してこよう。死の商人の実態や如何に？

米下院議長選、共和党マッカーシー氏を選出 15回目の投票で



●ケビン・マッカーシーに反対していたマット・ゲイツ議員の弁(2023年1月7日)

ケビン・マッカーシーに反対していたフリーダム・コーカスのマット・ゲイツ議員の弁。これは婚前契約書の様なものだ。マッカーシーは全ての要求に応じ、めでたく議長に選ばれた

<https://youtu.be/s3xQLADIK-M>



●ダグラス・マクレガー:「今後3か月でウクライナは負ける」(2022年12月30日)

ウクライナは今後 3 ヶ月で負ける。us元国防総省長官の顧問であるダグラス・マクレガー大佐は、このように語っている。

”今後 90 日間でロシア軍が事実上ウク軍全体を倒し破壊し、ウクライナの惨状を隠す事ができなくなる可能性が高いです。この国は廃墟と化すだろう」とマクレガーは言った。

彼によると、ホワイトハウスやヨーロッパの指導者がゼレンスキーの地位を守ろうとする試みは失敗する運命にあるという。NATO はキエフ政権に「何でもかんでも」ぶつけているが、ウクライナ軍はこれらの兵器を自分たちのシステムに適合させることができず、使用できないでいる。



●ウクライナ紛争はロシアを強くし、西側を零落させている = マクレガー大佐(2022年12月27日)

米軍退役大佐のダグラス・マクレガー氏は、ユーチューブチャンネル「StraightCalls with Douglas Macgregor」のインタビューで、**米国とその同盟国はロシアを破壊するために出来る限りのことをしているが、その結果、自分たちの経済を損ね、自分たちの国の状況を不安定にしている**と語った。

マクレガー氏は、西側諸国には多くの政治家がいるが、誰一人として国のために活動しているとは言えないと指摘した。なぜなら、国のために働く人々は難しい問題を提起したり、先見の明を持っているが、政治家たちは目の前の利益を得るためにプロパガンダを推進しているだけだからだという。マクレガー氏は、2022年2月24日以降、これらの政治家は状況をウクライナの勝利に向けた1つの長い行進のように体裁よく見せかけ、その中には彼らが含まれる軍産複合体の利益を促進してきたとし、その結果、ワシントンの所謂シンクタンクの大部分は米国が介入できる戦争や紛争などの数が増えることに賛同しているが、西側は事実上、財政破綻しているため、これはもちろんナンセンスだと強調した。

マクレガー氏によると、米国の公的債務残高は30兆または31兆ドル(約4200兆円)。米国は現在、第二次世界大戦後の1947年に英国が対GDP比での政府債務残高240%を記録したときと同じ状況にある。このように米経済は目の前で崩壊しており、これは主にウクライナ危機に国が巻き込まれているのが原因だが、大多数の米国人はウクライナがどこにあるのかさえ知らず、気にもかけていないという。彼らにとってははるかに気がかりなのは、自分の家庭で起こっていることだとマクレガー氏は強調している。

マクレガー氏によると、最も恐ろしいのは権力側にある西側のエリートたちがロシアのような大国との紛争に自分たちの国を引き込もうとしていることだ。イラクやアフガニスタンの場合のように、反撃手段を持たない敵に対するだらだらとした紛争は別だ。マクレガー氏は、そこでは「未経験な若者たちに対する苛酷な制裁」が行われたと述べている。しかしロシアは強力かつ有能な敵だ。だが最も興味深いのは、ロシアが西側との戦いをまったく望んでいないことだとマクレガー氏は強調した。**ロシアは自国に対する脅威に終止符を打つことを望んでいるだけだ。一方、米国とその同盟国は過去20年間にわたってウクライナを後に対ロシアで利用するためにたゆまぬ努力を続けてきた。**

マクレガー氏はインタビューで、当局に対して何度も「西側はなぜロシアと対立しようとしているのか?」「どこでロシアの利益と米国の利益が衝突しているのか?」と質問を投げかけたが、まともな回答は得られなかったと述べた。そして同氏は、ワシントンとロンドンでは豊富な資金を持つ少数派がロシアを破壊することに深い関心を持っており、リベラルなスローガンで自分たちの見苦しい行為をカモフラージュしていることを理解したという。

マクレガー氏は愛国者だが、現在のロシアは紛争前より財政的にも経済的な意味でも強いことを認めざるを得ないという。また同氏は、この紛争を終えたときロシアは当初よりもはるかに強大かつ高い戦闘能力と大きな破壊力を有した軍隊を持つ国となるだろうとの確信を示している。マクレガー氏はインタビューの最後に「したがって、すべてが我われにとって不利な状況となっている。なぜなら、米国の覇権や米国主導の英米覇権をその他の世界に押し付けようとすることはもはやできないからだ。その他の世界はこれを望んでいない。正直に言えば、我われにとってもこれは必要ではない。これは私たちを零落させている。そしてロシアとウクライナの紛争は、このプロセスを加速させているだけだ」

と述べた。

ロシア外務省のザハロフ報道官は先に、米国の政策はロシアと米国を直接的な衝突の瀬戸際に立たせると表明した。

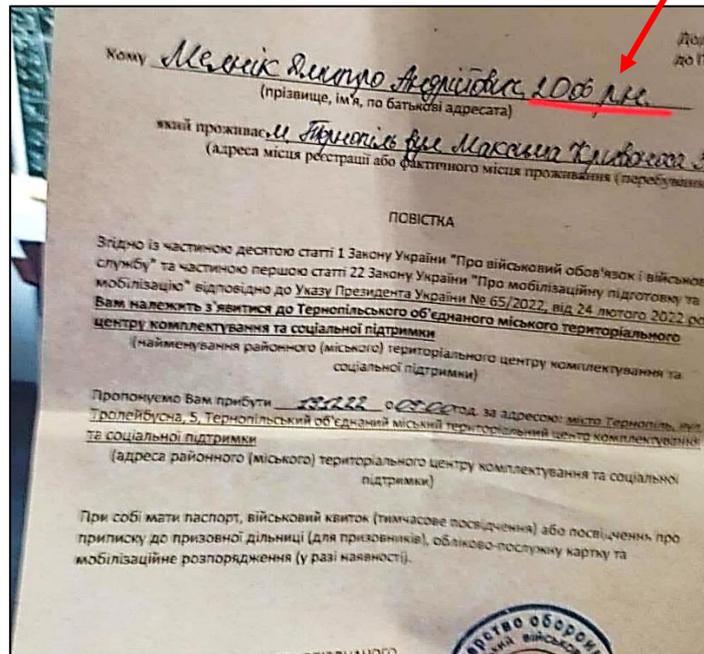


●動員されるウクライナの子どもたち(2023年1月1日)

ウクライナ人が子供たちを制服のまま前線に送っているという多くの証拠を見てきたし、尊敬するダグラス・マクレガー大佐もこのニュースを確認しているので、告発ですらないのだ。

これは、あるウクライナの家族に送られた動員通知書である。出生年(2006年)に注意。

<https://twitter.com/i/status/1609297385397833728>



●フランス製の砲弾片を、マクロン仏大統領宛てに送付(2023年1月4日)

ロシア国営宇宙企業ロスコスモスの前社長のロゴジン氏は、ドネツクで自身を負傷させたとするフランス製の砲弾片を、マクロン仏大統領宛てに送ったと明らかにした。この砲撃で友人 2 人が亡くなったと述べ「戦争犯罪の責任からは誰も逃れられないと伝えてほしい」と記している。

元副首相でもあるロゴジン氏は先月、ロシアの支配下にあるウクライナ東部ドネツク(Donetsk)で砲撃により負傷していた。

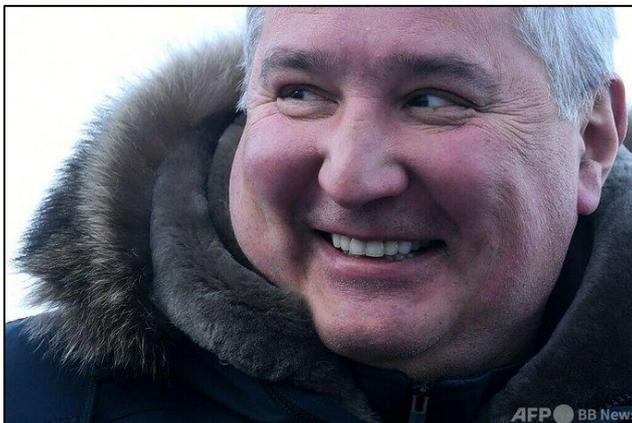
ウクライナ侵攻を強く支持しているロゴジン氏は、メッセージアプリのテレグラム(Telegram)で、

ピエール・レビー(Pierre Levy)駐ロシア仏大使に送ったとする書簡を公開した。

これには、「フランスの 155 ミリ自走榴弾砲カエサル(Caesar)からの砲弾の破片を封筒に入れた」と書かれており、体内で破片が 1 ミリずれていれば死んでいたかもしれないとつぶられていた。

さらにロゴジン氏は、この砲撃で友人 2 人が亡くなったと述べ、自身の体内から摘出されたとするこの砲弾片をマクロン大統領に届けるようレビー氏に依頼した上で、「戦争犯罪の責任からは誰も逃れられないと伝えてほしい」と記している。

在モスクワ仏大使館は AFP に対し、この書簡に関するコメントは差し控えるとした。



●ウクライナ軍による砲撃のロシア軍死者、89人に拡大＝露国防省(2023年1月5日)

ロシア国防省によれば、1月1日に実施されたウクライナ軍による砲撃の死者は当初発表より増え、89人に拡大した。

この日、一部のロシア兵が軍紀に背いて私用の携帯電話を使用したことによりウクライナ軍に電波を傍受され、位置を特定されたとのことだ。



●「ウクライナ軍に供与される武器は鉄くずやガラクタ」(ポーランド紙、2023年1月4日)

西側諸国は自国装備を更新するためウクライナに古い武器を供与している。ポーランド政治紙「Niezależny Dziennik Polityczny」のヤツェク・トフマン論説員が見方を示した。

論説によると「西側の軍事支援はとどまることなくウクライナに流れている。しかしこれら装備の大半は整備的にひどい状態にある。率直に言うと、単なるスクラップ金属やガラクタであり、このことはウクライナ軍関係者ら本人が認めている。このような劣悪状態の装備が意味するところは、それらが

古い兵器の保管庫からウクライナに供与されているということだ」という。

トフマン氏は、ストックホルム国際平和研究所(SIPRI)の専門家の見解として、西側がウクライナに供与する武器は古い備蓄であり、倉庫を空け、新規装備で補充するためにこれを行っていると説明。

このようなガラクタ処分は西側にとって有利であり、米軍事製造企業のレイセオン・テクノロジーズ、ロッキード・マーチン、ノースロップ・グラマンは米国だけでなく、NATO 同盟国の武器補充契約を結んでいるという。

トフマン論説員は、米国は軍事支援を装い、自身の目標を追求し、自国軍需産業の利益のために武器販売のロビー活動を行っているとの見解を示した。

ウクライナでのロシア特別作戦開始以来、米国とその同盟国は数十億ドル相当の軍事装備をウクライナ軍に供与してきた。ロシアはこれまで何度となく、西側が目指すのは紛争の長期化であると指摘。ロシア国防省が強調するように、外国製弾薬を保管した武器庫がロシア航空宇宙軍の標的になることは必然だ。



●ゼレンスキーの兵士を訓練した米国人大佐 ウクライナの戦争犯罪を目撃、非難(2023年1月4日)

ニューズウィーク誌は、民間軍事会社「モーツァルト」を創始したアンドリュー・ミルバーン氏の発言を引用し、ウクライナが戦争犯罪を犯していると報じた。ミルバーン氏は元米海兵隊大佐で、ウクライナで数か月にわたる訓練ミッションを行い、つい先日、米国に帰国している。

ミルバーン元大佐はニューズウィーク誌からの取材に、ウクライナ人兵士の大半は高い専門性で抜きん出ているにもかかわらず、中には戦争犯罪を犯す者がいたと話している。特に、ミルバーン氏はウクライナ軍兵士がロシア人捕虜兵を殺害している場面をこの目で目撃しており、ウクライナ人は捕虜を殺す前に残忍な方法で苦しめていたこと、また驚いたことにその場面を動画撮影していたと明かしている。

民間軍事会社「モーツァルト」は大半が元米軍特務部隊の隊員で構成されており、現在、ウクライナに様々なサービスを提供している。ミルバーン氏は自分は従軍中に多くを目にしてきたものの、ウクライナ兵の行為は現在存在するあらゆる国際条約、取り決めに違反しているとの認識を表した。

ロシア政府は、ロシア連邦の民間人に対して行うウクライナのテロ行為の責任は米国にあると非難していた。



●ドイツの兵役拒否者の急増(2023年1月8日)

ドイツでは兵役拒否申請が 2021 年は 201 件、2022 年は 951 人になった。(2022年 9 月時点ではまだ 657 名であった)。

拒否者の多くは、ウクライナに対する戦争とその拡大の可能性を考慮し、「予期していなかった」と拒否申請を正当化した。



●岸田首相の NHK での発言(タス通信、2023年1月8日)

ウクライナを取り巻く状況により、何十年もロシアからの安価で安定した供給に頼ってきた欧州は「ひどい状態」であることが分かった、と日本の岸田首相は NHK の放送で述べた。



●ロシアの正教会のクリスマス祝賀(2023年1月 8 日)

RT(ロシア・トゥデイ)のスティーブ・スウィーニーは、モスクワの冬休みの祝祭のすばらしさについて、何十万人ものロシア人が国中で正教会のクリスマスを祝っていることを取材した。

<https://twitter.com/i/status/1611965928316567552>



●米国の元政治家達が、ウクライナへの資金援助を求める戦いに参加(2023年1月8日)

※投稿者はライスとゲイツを「悪党たち」とコメントしている。

ライスとゲイツは、米国当局は反省や議論をやめ、代わりに同盟国に圧力をかけ、数週間以内に速やかに、ウクライナ人が求めるものを全て与えるべきだ、米国の代わりに、ドイツや他の同盟国がウクライナのために必要性を満たすべきだと。



●プーチン「時間は自分たちの味方」(2023年1月8日)

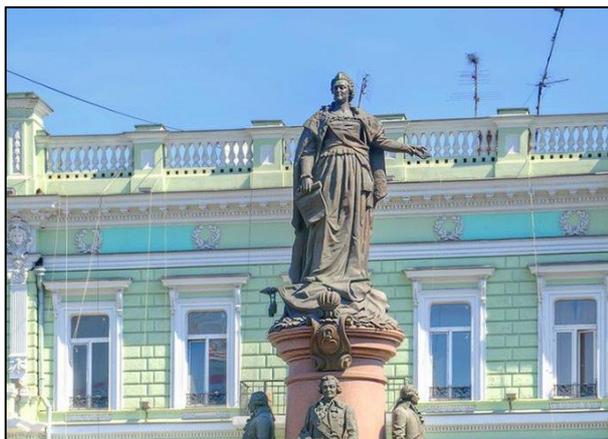
かつて何度もプーチン大統領と接触した米国の元政府関係者は、こう述べる。

「プーチンは時間は自分の味方だと考えている。ウクライナ支援の西側の結束や欧米の支援はいずれ弱まり崩壊し、ウクライナを消耗させると。確かに戦争が続けばロシア経済や国民は苦しむだろう。だが、ロシア人はもっとひどい事に耐えてきたのだ」。

●ウクライナでのロシア記念碑壊し取り壊しについての詩人の意見(2023年1月8日)

ロシア作家連合のメンバーで詩人のイーゴリ・ヴィティウク氏は、ウクライナによるロシアの記念碑取り壊しについて意見を述べた。

「私の答えはただ一つ、様々なレベルで自分の決定の結果を評価することができない退廃的な世代がウクライナで権力を握っているからだ。現在彼らの多くが「ナチス乱用」に陥っている」。



●ドネツクへのウクライナ軍の攻撃つづく(2023年1月8日)

ドネツク人民共和国の Novyy Svit 村にある火力発電所へのウ軍による砲撃により、女性が死亡した。救急隊は、被害者の遺体は工場の瓦礫の下から引き出されたとタス通信に語った。



●元旦のウクライナの攻撃に対する報復(2023年1月3日)

※安齋注:5頁の「ウクライナ軍による砲撃のロシア軍死者、89人に拡大」に対する報復作戦です。

ロシア国防省は、ウクライナが支配するドンバスの都市クラマトルスクでのロシアのミサイル攻撃で、**キエフの軍隊の600人以上が排除された**と主張している。

日曜日の砲撃は、元旦の夜にドネツク人民共和国(DPR)のマケエフカ市にあるロシア軍人を収容する仮設住宅地に対するウクライナによる「犯罪攻撃」に対応して行われた「報復作戦」であると同省は声明で述べた。

過去24時間にわたって、ロシア軍はDPRのクラマトルスクにいるウクライナ軍の位置を発見し、確認することに成功した、と声明は言っている。このデータによると、市内の28寮には700人以上のキエフ兵士が収容されており、さらに600人が47寮に滞在していた。

「ウクライナ軍の部隊のこれらの仮設住宅地への大規模なミサイル攻撃の結果、600人以上のウクライナ軍人が殺害された」と同省は述べた。

しかし、ウクライナ軍は、攻撃の結果として大きな犠牲者を出したことを否定している。ウクライナ軍の東部グループのスポークスマン、セルゲイ・チェレヴァティは、モスクワの声明を、ロシア自身の装備と人員の大幅な損失から気をそらすことを目的とした「サイオプ」(心理作戦)として却下した。

1月1日午前0時1分、ウクライナ軍はマケエフカ市のロシア軍を含む仮設住宅地を標的にした。米国が供給したHIMARS多連装ロケットランチャーからの6発のミサイルが建物に発射されました。そのうちの2つはロシアの防空によって迎撃されましたが、4つは通過し、施設に甚大な被害をもたらしました。**ロシア国防省によると、この攻撃による死者数は89人に達した。**

今週初め、モスクワは、マケエフカへの攻撃で使用されたランチャーを含め、ウクライナが運営するいくつかのHIMARSシステムがドンバスで破壊されたと述べた。

クラマトルスクへの攻撃は、ロシアのウラジーミル・プーチン大統領が発表した36時間の停戦に続いて行われ、ロシアとウクライナの人口の大部分を占める正教会のキリスト教徒が教会に行き、安全にクリスマスを祝うことができるようにしました。ロシア軍による停戦は一方的であり、ウクライナ軍はドンバス、ヘルソン、ザポリージャ地域の新しく組み込まれたロシア領土の複数の地域を砲撃し続けたと

モスクワは述べた。



次の映像はこの報復作戦を報じるロシア・トゥデイのもの。

<https://twitter.com/i/status/1612080272174108672>

